資料　№.72

平成 26 年入院患者生活実態調査

―平成 11 年調査と比較して―

平成 27（2015）年

大阪社会医療センター社会医学研究会

【社会医学研究会】

医療福祉相談係：坂東　徳久栄（総務課主幹）、塚本　伸哉（係長）、下村　春美（主査）
医　　局：齊藤　忍（病院長）、工藤　新三（副院長兼内科部長）、
家口　尚（整形外科部長）、久保　尚士（外科部長）
看　護　部：堀川　勝子（看護部長）
事　務　局：西川　勝也（事務局次長）
総　務　課：津村　直己（総務課長）

1. はじめに

平成 11 年に社会医学研究会で「入院患者生活実態調査」を実施した。西成警察の調べでは平成 11 年 2 月のあいりん地区の野宿者数は 1 日平均 1,107 人であったが、平成 26 年 2 月は 457 人、平成 11 年 2 月の炊き出しは 1 日平均 1,174 人であったが平成 26 年 2 月は 225 人、平成 11 年 2 月の大阪市立更生相談所の受付面接数は 2,186 人であったが、平成 26 年 2 月は 666 人と大幅に減少している。平成 11 年 2 月の当院外来患者数は、1 日当り 359 人であったが平成 26 年 2 月の 1 日当りは 209 人と 58%に減少している。

以上のように野宿者数や炊き出しを利用する人が大幅に減少し、平成 26 年 4 月には大阪市立更生相談所が廃止され西成区保健福祉センター分館になるなど、この 15 年の間にあいりん地域の生活実態、社会環境が大きく変化したことがわかる。

このようなあいりん地域の変化の中で、当院に入院している患者の入院前の生活背景から疾病とあいりん地域の環境との関連について調査し、今後もあいりん地域の基幹病院としての役割を果たすための資料として調査した。

2. 調査期間並びに調査対象者

平成 26 年 1 月 1 日から 3 月 31 日までの間に新規に入院した患者 109 人を対象とした。

3. 調査方法

「入院患者調査票」（別紙）による聞き取り調査を実施した。

4. 調査結果

平成 11 年 1 月 1 日から 3 月 31 日までの新規入院患者（132 人）の調査と対比して結果を示した。

Ⅰ　生活環境について

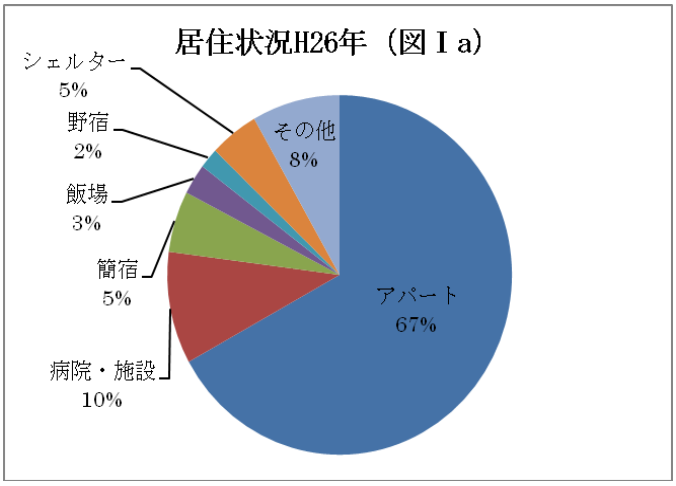
①　居住状況と平均年齢（図Ⅰa、図Ⅰb・表 1）

ここ 1 ヶ月の主たる居住場所で最も多いのは「アパート」（67.3%）で、次に「病院・施設」（10.1%）であった。「野宿」（1.8%）と「シェルター※」（4.6%）の合計 6.4%は住所不定であった。平成 11 年と比較すると生活基盤が比較的安定している「アパート」「簡宿」「飯場」の合計が 51.5%から、平成 26 年は 75.6%

に増加した。

あいりん地域在住 20 年以上では「アパート」（81.3%）が最も多く、「シェルター」（6.3%）「野宿」（0%）であった。平成 11 年は「アパート」（29.3%）が最も多かったが、「野宿」（22.4%）も多く、生活が安定している人と不安定な人が同じくらい生活していた。

平均年齢は全体で 61.4 歳と 11 年前に比べて高齢化した。また、あいりん地域在住 20 年以上の人は「アパート」が 66.4 歳と他の居住状況の人に比べて年齢が高かった。



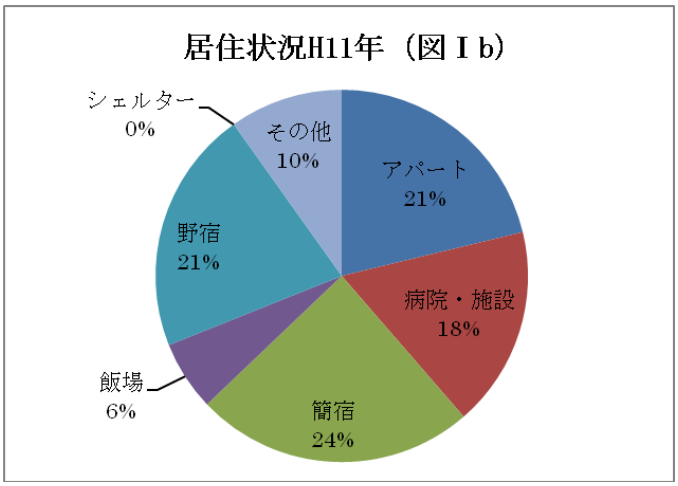


表1　居住状況と平均年齢

		アパート		病院・施設		簡宿		飯場		野宿		シェルター		その他		合計	
		H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年
全対象者	人	73	28	11	23	6	32	3	8	2	28	5		9	13	109	132
	%	67.0	21.2	10.1	17.4	5.5	24.2	2.8	6.1	1.8	21.2	4.6		8.3	9.8	100	100
平均年齢（全体）	歳	62.5	60.6	59.0	60.2	57.7	56.0	61.7	61.8	62.5	57.3	60.8		57.7	63.0	61.4	58.9
あいりん地域在住20年以上	人	26	17	3	12		12		3		13	2		1	1	32	58
	%	81.3	29.3	9.4	20.7		20.7		5.2		22.4	6.3		3.1	1.7	100	100
平均年齢（20年以上）	歳	66.4	61.2	61.7	59.8		60.2		66.3		60.2	67.5		60.0	59.0	65.8	60.9

※シェルター（あいりん臨時夜間緊急避難所）：今宮シェルターが平成 12 年 4 月に萩之茶屋南公園（通称三角公園）南側、萩之茶屋シェルターが平成 16 年 1 月に三徳寮東隣に開設されたが萩之茶屋シェルターは改修のため平成 25 年 8 月より現在は閉鎖中。

② 白手帳※の所持状況（表２－1、表２－2）

白手帳所持者は全体の 3.7%で平成 11 年に比べて 20.5 ポイント減少した。あいりん地域在住 20 年以上の所持者は平成 11 年が 22.4%であったが、平成 26 年は 0%に減少した。

現在の仕事が「日雇」の 4 名のみ所持していた。平成 11 年の「日雇」は 37.5%の人が所持していた

表2－1　居住別白手帳の所持状況　　人（%）

	無		有		合計		あいりん地域在住20年以上	
	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年
アパート	72（98.6）	24(85.7)	1(1.4)	4(14.3)	73	28		
病院・施設	11（100）	18(78.3)		5(21.7)	11	23		
簡宿	5（83.3）	20(62.5)	1(16.7)	12(37.5)	6	32		
飯場	1（33.3）	6(75.0)	2(66.7)	2(25.0)	3	8		
野宿	2（100）	23(82.1)		5(17.9)	2	28		
シェルター	5（100）				5			
その他	9（100）	9(69.2)		4(30.8)	9	13		
合計	105（96.3）	100(75.8)	4(3.7)	32（24.2）	109	132	有　0人	有13人22.4%
							無32人100%	無45人77.6%

表2-2　白手帳所持状況と現在の仕事　　人（%）

生計の糧	白手帳（無）		白手帳（有）		合計	
	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年
生活保護	79(75.2)	37(37.0)		6(18.8)	79(72.4)	43(32.6)
年金・貯え・妻の収入	3(2.9)	8(8.0)		4(12.5)	3(2.7)	12(9.1)
ケアセン小遣い	2(1.9)	4(4.0)		1(3.1)	2(1.8)	5(3.8)
空缶回収	2(1.9)	13(13.0)		1(3.1)	2(1.8)	14(10.6)
アブレ・休業補償	1(1.0)	1(1.0)		1(3.1)	1(1.0)	2(1.5)
借金・友人援助		2(2.0)		2(6.2)		4(3.0)
炊き出し等	1(1.0)	4(4.0)		2(6.2)	1(1.0)	6(4.5)
不明	4(3.8)	4(4.0)		3(9.4)	4(3.8)	7(5.3)
日雇	11(10.5)	24(24.0)	4(100)	12(37.5)	15(13.8)	36(27.3)
その他	2(1.9)	3(3.0)			2(1.8)	3(2.3)
合計	105(100)	100(100)	4(100)	32(100)	109(100)	132(100)

※白手帳：正式には「日雇い雇用保険手帳」だが、表紙の色が白いのでこう称されることが多い。印紙を所定数貼れば失業手当（アブレ手当）を一定期間受給することができる日雇い労働者のための手帳。

③　医療保障の状況（表 3）

住所不定者も入院すると生活保護適用となるため 97.2%が「生活保護」であった。

表3　医療保障別内訳　　人（%）

	H26年	H11年
生活保護	106（97.2）	121（91.7）
日雇健保		6(4.5)
国保	2（1.8）	2(1.5)
労災保険	1（0.9）	2(1.5)
老人保険		1(0.8)
合計	109（100）	132(100)

④　あいりん地域在住期間　（表 4）

あいりん地域在住 20 年以上は平成 26 年の 29.4%に対して、平成 11 年度は 44.0%と多かった。あいりん地域在住 5 年以下は平成 26 年が 33.0%に対して、平成 11 年は 16.6%と少なかった。

表4　あいりん地域在住期間　　人（%）

	H26年	H11年
1年未満	11(10.0)	4(3.0)
1年～3年	15(13.8)	7(5.3)
3年～5年	10(9.2)	11(8.3)
5年～10年	15(13.8)	11(8.3)
10年～15年	11(10.1)	21(15.9)
15年～20年	11(10.1)	19(14.4)
20年～25年	5(4.6)	17(12.9)
25年～30年	6(5.5)	7(5.3)
30年以上	21(19.3)	34(25.8)
不明	4(3.7)	1(0.8)
合計	109(100)	132(100)

⑤　あいりん地域に来る直前の都道府県　（表 5－1、表 5－2）

平成 26 年のブロック別 1 位は近畿で 63 名（57.8%）、次いで関東の 12 名（11%）であった。平成 11 年も 1 位が近畿で 79 名（59.8%）、次いで関東 18 名（13.6%）であいりん地域に来る直前の場所は同じような順位となっていた。

都道府県別にみると平成 26 年の 1 位は大阪府の 47 名（43.1%）、2 位は東京都と兵庫県の 10 名（9.2%）で、平成 11 年は 1 位が大阪府の 49 名（37.1%）、2 位の東京都が 16 名（7.6%）、3 位が兵庫県で 15 名（11.4%）と 15 年経過しても同じ傾向であった。

あいりん地域に来る直前の場所と現在の主たる居住場所を比較すると、平成26年はどのブロック出身の人も1位が「アパート」、2位が「病院・施設」であった。平成11年では近畿出身は「簡宿」が最も多く、ついで「野宿」と続いていた。関東・中国・四国出身では「野宿」が一番多かった。

表5-1　あいりん地域に来る直前の都道府県　　人

都道府県		患者数		都道府県		患者数	
		H26年	H11年			H26年	H11年
近　畿		63	79	四国・中国		9	14
	大阪府	47	49		岡山県	3	1
	兵庫県	10	15		愛媛県	3	4
	京都府	2	5		広島県	2	2
	和歌山県	2	6		徳島県	1	1
	奈良県	0	2		山口県	0	2
	滋賀県	2	2		島根県	0	1
関　東		12	18		鳥取県	0	1
	東京都	10	16		高知県	0	1
	千葉県	1	0		香川県	0	1
	神奈川県	1	2	中部・北陸		11	7
九州・沖縄		8	10		愛知県	5	5
	福岡県	5	5		静岡県	3	0
	鹿児島県	0	1		三重県	2	0
	熊本県	0	1		岐阜県	1	1
	宮崎県	0	1		長野県	1	1
	長崎県	1	0	東北・北海道			2
	大分県	2	0		北海道	0	2
	沖縄県	0	2	不明		6	2
				合　計		109	132

表5-2　あいりん地域に来る前の地方と現在の主たる居住場所

	近畿		関東		四国・中国		九州・沖縄		中部・北陸		東北・北海道		他	
	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年
アパート	42	13	6	5	6	3	5	3	8	2		1	5	1
病院・施設	7	14	1	4		1	1	2	2	2				
簡　宿	4	23	1	1		3		3	1			1		1
シェルター	2		2		1	0	1							
飯　場	2	6		1		1							1	
野　宿		21	1	6	1	5		2		2				
その他	6	2	1	1	1	1	1			1				
合　計	63 (57.8)	79 (59.8)	12 (11.0)	18 (13.6)	9 (8.3)	14 (10.6)	8 (7.3)	10 (7.6)	11 (10.1)	7 (5.3)		2 (1.5)	6 (5.5)	2 (1.5)

⑥　入院前日の居住場所とここ１ヶ月の主たる居住場所　（表 6）

入院前日の居住場所が「アパート」の人は平成 26 年、平成 11 年ともにここ１か月の居住場所も「アパート」であった。

入院前日の居住場所が「簡宿」の人は平成 26 年が 50%、平成 11 年は 86.5%がここ１か月の居住場所も「簡宿」であった。平成 11 年は入院前日が「野宿」の人はここ１か月の居住場所も「野宿」が 69.6%、「その他」が 28.9%であったが、平成 26 年は 0%であった。

「その他」は友人宅、映画館、刑務所、テント生活、生活ケアセンターであった。

人

表6　入院前日の居住場所とここ1ヶ月の主たる居住場所　(%)

		ここ1か月の主たる居住場所														合計	
		アパート		病院・施設		簡宿		飯場		野宿		シェルター		その他			
		H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年
入院前日の居住場所	アパート	72	28	1										2		75 (68.8)	28 (21.2)
	病院・施設	1		10	17	1								2	1	14 (12.8)	18 (13.6)
	簡宿					5	19	2	1	1	1			2	1	10 (9.2)	22 (16.7)
	シェルター							1				5				6 (5.5)	
	飯場								3								3 (2.3)
	野宿				1		4		1		16				1		23 (17.4)
	その他				5		9		3	1	11			3	10	4 (3.7)	38 (28.8)
	合計	73 (67.0)	28 (21.2)	11 (10.1)	23 (17.4)	6 (5.5)	32 (24.2)	3 (2.8)	8 (6.1)	2 (1.8)	28 (21.2)	5 (4.6)		9 (8.3)	13 (9.8)	109 (100.0)	132 (100.0)

⑦　昨年の臨泊※利用状況（表 7）

昨年の臨泊利用は平成 11 年が 18.2%であったが、平成 26 年が 6.4%に減少した。アパートで生活する人が大半で住所不定者が少なくなっていることから臨泊利用者が減少した。

表7　昨年の臨泊利用状況

	有	
	H26年	H11年
アパート	0 ／ 73　(0.0%)	0 ／ 28　(0.0%)
病院・施設	1 ／ 11　(9.1%)	4 ／ 23　(17.4%)
簡宿	0 ／ 6　(0.0%)	4 ／ 32　(12.5%)
飯場	1 ／ 3　(33.3%)	0 ／ 8　(0.0%)
野宿	1 ／ 2　(50.0%)	14 ／ 28　(50.0%)
シェルター	3 ／ 5　(60.0%)	
その他	1 ／ 9　(11.1%)	2 ／ 13　(15.4%)
合計	7 ／ 109　(6.4%)	24 ／ 132　(18.2%)

※臨泊（臨時宿泊所）：あいりん地域における日雇労働者の年末年始の生活安定化及び地域住民の福祉向上を図るため、真に困窮する日雇労働者に対して援護を行う宿泊所。

⑧　施設の利用状況　（表 8）

「生活ケアセンター」利用者は平成 11 年が 63.5%であったが、平成 26 年は 33.3%と約半分に減少した。

「シェルター」利用者は、平成 26 年の「飯場」で生活する人も利用していた。平成 11 年当時は「シェルター」は無かった。

表8ａ　ここ6ヶ月の施設利用状況（複数回答）H26年

	生活ケアセンター	シェルター	生活保護施設	その他	合計
アパート	2		2		4 ／ 73 (5.5%)
病院・施設	2		4	1	7 ／ 11 (63.6%)
簡宿	2				2 ／ 6　(33.3%)
飯場		2			2 ／ 3　(66.7%)
野宿					0 ／ 2　(0.0%)
シェルター	1	5			6 ／ 5　(120.0%)
その他	1			2	3 ／ 9　(33.3%)
合計	8/24	7/24	6/24	3/24	24 ／ 109 (22.0%)

表8ｂ　ここ6ヶ月の施設利用状況（複数回答）H11年

	生活ケアセンター	シェルター	生活保護施設	その他	合計
アパート			1		1 ／ 28 (3.6%)
病院・施設	5		11	2	18 ／ 23 (78.3%)
簡宿	7		1	1	9 ／ 32 (28.1%)
飯場	4				4 ／ 8　(50.0%)
野宿	16		2	4	22 ／ 28 (78.6%)
シェルター					
その他	8		1	2	9 ／ 13 (69.2%)
合計	40/63		16/63	7/63	63 ／ 132 (47.7%)

⑨　食事の状況

(ア) 入院前日の食事状況（表 9－1、表 9－2）

平成 26 年は全体の 25.4%が朝・昼・夕食のいずれかを食べていなかった。平成 11 年は 27.8%であったので 2.4 ポイント減少した。

平成 26 年と平成 11 年のどちらも 3 食の中で夕食が 1 番「食事なし」が少なかった。

「食事あり」の人で普通食を食べている人は平成 11 年が平成 26 年に比べて 62.2%から 45.4%に減少した。パンのみ、麺類のみ、1 品のみが平成 26 年は平成 11 年に比べて増加し、「炊き出し」は平成 26 年が平成 11 年に比べて 9.4%から 0.4%に減少した。

表9-1　入院前日の食事の状況　　人（%）

		なし	あり	回答なし	合計
朝食	H26年	29 (26.6)	79 (72.4)	1 (1.0)	109
	H11年	48 (36.4)	84 (63.6)		132
昼食	H26年	33 (30.3)	75 (68.8)	1 (0.9)	109
	H11年	47 (35.6)	85 (64.4)		132
夕食	H26年	21 (19.3)	86 (78.9)	2 (1.8)	109
	H11年	15 (11.4)	117 (88.6)		132
合計	H26年	83 (25.4)	240 (73.4)	4 (1.2)	327
	H11年	110 (27.8)	286 (72.2)		396

表9-2　「有」の場合の食事内容　　人（%）

		普通食	パン・乾パンのみ	めん類のみ	弁当	おにぎりのみ	ごはんとみそ汁	一品のみ	飲み物のみ	炊きだし粥	合計
朝食	H26年	28 (35.4)	30 (38.0)	5 (6.3)	3 (3.8)	1 (1.3)	5 (6.3)	5 (6.3)	2 (2.5)		79
	H11年	49 (58.3)	14 (16.7)	2 (2.4)		2 (2.4)		1 (1.2)	2 (2.4)	7 (8.3)	84
昼食	H26年	29 (38.7)	8 (10.7)	19 (25.3)	7 (9.3)	1 (1.3)	1 (1.3)	8 (10.7)	2 (2.7)		75
	H11年	51 (60.0)	6 (7.1)	12 (14.1)		1 (1.2)	4 (4.7)	1 (1.2)	2 (2.3)	8 (9.4)	85
夕食	H26年	52 (60.5)	4 (4.7)	7 (8.1)	11 (12.8)			10 (11.6)	1 (1.2)	1 (1.2)	86
	H11年	78 (66.7)	8 (6.8)	10 (8.5)		1 (0.9)	4 (3.4)	3 (2.5)	1 (0.9)	12 (10.3)	117
合計	H26年	109 (45.4)	42 (17.5)	31 (12.9)	21 (8.8)	2 (0.8)	6 (2.5)	23 (9.6)	5 (2.1)	1 (0.4)	240
	H11年	178 (62.2)	28 (9.8)	24 (8.4)		4 (1.4)	15 (5.2)	5 (1.7)	5 (1.7)	27 (9.4)	286

(イ) 入院前日の食事状況と入院前日の居住状況（表 9－3）

食事なしを居住形態で見ると平成 11 年は「野宿」が 27.3%と最も高く、次いで「アパート」が 21.8%、「簡宿」が 19.1%であった。平成 26 年は入院前日が「野宿」の人がいなかった。食事なしは「アパート」が 71.1%と 1 番多く、次いで「簡宿」の 13.3%であった。

表9-3　入院前日の食事状況と入院前日の居住状況　　人 (%)

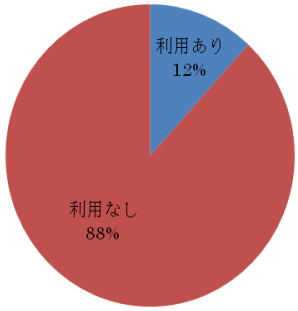
	なし								あり								回答なし			
	H26年				H11年				H26年				H11年				H26年			
	朝食	昼食	夕食	合計	朝食	昼食	夕食	合計	朝食	昼食	夕食	合計	朝食	昼食	夕食	合計	朝食	昼食	夕食	合計
アパート	19	24	16	59 (71.1)	10	8	6	24 (21.8)	55	50	58	163 (67.9)	18	20	22	60 (21.0)	1	1	1	3
病院・施設	1	2	1	4 (4.8)	2	4	1	7 (6.4)	13	12	13	38 (15.8)	16	14	17	47 (16.4)				
簡宿	6	2	3	11 (13.3)	8	10	3	21 (19.1)	4	8	7	19 (7.9)	14	12	19	45 (15.7)				
シェルター	3	2	1	6 (7.2)					3	4	5	12 (5.0)								
飯場					2			2 (1.8)					1	3	3	7 (2.4)				
野宿					15	12	3	30 (27.3)					8	11	20	39 (13.6)				
その他		3		3 (3.6)	11	13	2	26 (23.6)	4	1	3	8 (3.3)	27	25	36	88 (30.8)			1	1
合計	29	33	21	83 (100.0)	48	47	15	110 (100.0)	79	75	86	240 (100.0)	84	85	117	286 (100.0)				

(ウ) 炊き出しの利用状況　（図Ⅱa、図Ⅱb・表 10）

炊き出しを利用している人は平成 26 年が全体の 11.9%で、平成 11 年の 40.9%と比較して減少した。「野宿」「飯場」「シェルター」の利用者が多かった。

炊き出しを毎日利用している人は、平成 26 年は 15.3%で平成 11 年と比較して 19.9 ポイント減少した。月に 1～2 回利用している人は平成 11 年に比べて平成 26 年は 16.0 ポイント増加した。平成 11 年は「アパート」の人は炊き出しの利用は無かったが、平成 26 年は 3 名（4.1%）利用していた。

炊き出し利用状況H26年（図Ⅱa）



炊き出し利用状況H11年（図Ⅱb）

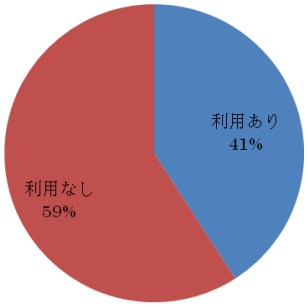


表10ａ　炊き出しの利用状況・利用頻度と居住場所（H26年）　人（%）

	利用あり	毎日	ときどき		
			週3回以上	週1～2回	月1～2回
アパート	3 ／ 74 (4.1)			2	1
病院・施設	1 ／ 10 (10.0)			1	
簡宿	1 ／ 6 (16.7)	1			
シェルター	3 ／ 5 (60.0)	1	1	1	
飯場	2 ／ 3 (66.7)		1		1
野宿	2 ／ 2 (100.0)			1	1
その他	1 ／ 9 (11.1)				1
合計	13 ／ 109 (11.9)	2 ／ 13 (15.3)	5 ／ 13 (15.3)	5 ／ 13 (38.5)	4 ／ 13 (30.8)

表10ｂ　炊き出しの利用状況・利用頻度と居住場所（H11年）　人（%）

	利用あり	毎日	ときどき		
			週3回以上	週1～2回	月1～2回
アパート	0 ／ 28 (0.0)				
病院・施設	12 ／ 23 (52.2)	5	1	3	3
簡宿	8 ／ 32 (25.0)		1	6	1
シェルター					
飯場	0 ／ 8 (0.0)				
野宿	25 ／ 28 (89.3)	10	3	9	3
その他	9 ／ 13 (69.2)	4	1	3	1
合計	54 ／ 132 (40.9)	19 ／ 54 (35.2)	6 ／ 54 (11.1)	21 ／ 54 (38.9)	8 ／ 54 (14.8)

⑩　入浴状況　（表 11－1、表 11－2）

ここ１ヶ月入浴(シャワー)をしていない人は平成 11 年が 4.5%であったが、平成 26 年は 10.1%と 2 倍以上に増加した。「アパート」で生活している人は平成 11 年が 100%入浴していたが、平成 26 年は 91.1%と減少した。「簡宿」は平成 11 年、平成 26 年共に 100%の人が入浴していた。

入浴場所は平成 11 年の「銭湯」が 40.5%と 1 番多かったが、平成 26 年は 5.1%に減少した。銭湯に行く人で「アパート」が 24 名（47.1%）で一番多く、「野宿」の 12 名（23.5%）、「簡宿」が 9 名（17.6%）と続いていた。平成 26

年は「自宅」が 63.9%と平成 11 年に比べて 62.3 ポイント増加した。「アパート」で生活する人は平成 11 年に比べて銭湯に行かなくなっていた。

人

表11-1ａ　ここ1ヶ月の入浴（シャワー）回数と居住場所（H26年）　(%)

	あり	毎日	週3回以上	週1～2回	月1～2回	合計
アパート	67 ／ 73	26 ／ 67	16 ／ 67	25 ／ 67		67
病院・施設	9 ／ 11	3 ／ 9	5 ／ 9	1 ／ 9		9
簡宿	6 ／ 6	3 ／ 6	2 ／ 6	1 ／ 6		6
飯場	2 ／ 3	2 ／ 2				2
野宿	2 ／ 2			1 ／ 2	1 ／ 2	6
シェルター	4 ／ 5	2 ／ 4	1 ／ 4	1 ／ 4		16
その他	8 ／ 9	1 ／ 8	3 ／ 8	4 ／ 8		32
合計	98 ／ 109 (89.9)	37 ／ 98 (37.8)	27 ／ 98 (27.6)	33 ／ 98 (33.7)	1 ／ 98 (1.0)	490 (100.0)

人

表11-1b　ここ1ヶ月の入浴（シャワー）回数と居住場所（H11年）　(%)

	あり	毎日	回以上	週1～2回	月1～2回	合計
アパート	28 ／ 28	2 ／ 28	14 ／ 28	12 ／ 28		28
病院・施設	22 ／ 23	2 ／ 22	12 ／ 22	6 ／ 22	2 ／ 22	22
簡宿	32 ／ 32	8 ／ 32	12 ／ 32	11 ／ 32	1 ／ 32	32
飯場	8 ／ 8	6 ／ 8		2 ／ 8		8
野宿	25 ／ 28		1 ／ 25	17 ／ 25	7 ／ 25	100
シェルター						
その他	11 ／ 13	1 ／ 11	3 ／ 11	6 ／ 11	1 ／ 11	11
合計	126 ／ 132 (95.5)	19 ／ 126 (15.1)	42 ／ 126 (33.3)	54 ／ 126 (42.9)	11 ／ 126 (8.7)	630 (100.0)

人

表11-2ａ　入浴場所（H26年）　(%)

	自宅	簡宿	病院・施設	銭湯	友人	ケアセンター	飯場	総合センター	その他	合計
アパート	61			5		1				67 ／ 97
病院・施設			8							8 ／ 97
簡宿		6								6 ／ 97
飯場							2			2 ／ 97
野宿		1							1	2 ／ 97
シェルター									4	4 ／ 97
その他	1	1			3	1			2	8 ／ 97
合計	62 (63.9)	8 (8.2)	8 (8.2)	5 (5.2)	3 (3.1)	2 (2.1)	2 (2.1)		7 (7.2)	97 ／ 97 (100.0)

表11-2ｂ　入浴場所（H11年）　　人（%）

	自宅	簡宿	病院・施設	銭湯	友人	ケアセンター	飯場	総合センター	その他	合計
アパート	2			24					2	28 ／ 126
病院・施設			21			1				22 ／ 126
簡宿		17		9	1	1		2	2	32 ／ 126
飯場		1		2			3	1	1	8 ／ 126
野宿				12		3		7	3	25 ／ 126
シェルター										
その他				4		4		3		11 ／ 126
合計	2 (1.6)	18 (14.3)	21 (16.7)	51 (40.5)	1 (0.8)	9 (7.1)	3 (2.4)	13 (10.3)	8 (6.3)	126 ／ 126 (100.0)

Ⅱ　患者の特性について

①　仕事の状況

(ア) 現在の仕事と居住状況（表 12－1）

現在の「仕事なし」が平成 11 年は 70.5%であったが、平成 26 年は 84.4%に増加した。

平成 11 年の「アパート」で生活している人の 96.4%が「仕事なし」で、平成 26 年が 97.3%とほとんど変化は無かった。

あいりん地域在住 20 年以上では平成 26 年は「仕事なし」が 100%であったが、平成 11 年は 84.5%であった。

表12-1ａ　現在の仕事と居住状況（H26年）　　人（%）

	仕事なし	日雇	その他	合計	(参考)あいりん在住20年以上	
					仕事あり	仕事なし
アパート	71 (97.3)	2 (2.7)		73 (100.0)		
病院・施設	10 (90.9)		1 (9.1)	11 (100.0)		
簡宿	1 (16.7)	4 (66.7)	1 (16.7)	6 (100.0)		
飯場	1 (33.3)	2 (66.7)		3 (100.0)		
野宿	1 (50.0)	1 (50.0)		2 (100.0)		
シェルター	2 (40.0)	3 (60.0)		5 (100.0)		
その他	6 (70.0)	3 (30.0)		9 (100.0)		
合計	92 (84.4)	15 (13.8)	2 (1.8)	109 (100.0)	0/0 (0.0)	32/32 (100.0)

人
表12-1ｂ　現在の仕事と居住状況（H11年）　(%)

	仕事なし	日雇	その他	合計	(参考)あいりん在住20年以上	
					仕事あり	仕事なし
アパート	27 (96.4)	1 (3.6)		28 (100.0)		
病院・施設	23 (100.0)			23 (100.0)		
簡宿	12 (37.5)	19 (59.4)	1 (3.1)	32 (100.0)		
飯場		8 (100.0)		8 (100.0)		
野宿	23 (82.1)	4 (14.3)	1 (3.6)	28 (100.0)		
シェルター						
その他	8 (61.5)	4 (30.8)	1 (7.7)	13 (100.0)		
合計	93 (70.5)	36 (27.3)	3 (2.3)	132 (100.0)	9/58 (15.5)	49/58 (84.5)

(イ)現在の「仕事なし」と答えた人の生活の糧（表 12－2）

「生活保護」で生計を支えている人が、平成 26 年は 84.9%で平成 11 年が 46.2%と比較して大幅に増加した。

平成 26 年は「野宿」生活者が少なく、「炊き出し」を利用している人は全体で 1 名（1.1%）、平成 11 年の「野宿」生活者は空き缶回収（47.8%）、炊き出し（17.4%）で生活していた。

あいりん地域在住 20 年以上の人は平成 26 年の「生活保護」が 87.5%で、平成 11 年の 53.1%と比較して増加した。

人
表12-2ａ何で生計を立てているか（H26年）　(%)

	生保	年金・貯え・妻の収入	ケアセン小遣い	空缶回収	アブレ・休業補償	借金・友人援助	炊き出し等	不明	合計
アパート	67	1	1		1				70
病院・施設	8							3	11
簡宿		1							1
飯場		1							1
野宿				1					1
シェルター			1	1					2
その他	4					1	1	1	7
合計	79 (84.9)	3 (3.2)	2 (2.2)	2 (2.2)	1 (1.1)	1 (1.1)	1 (1.1)	4 (4.3)	93 (100.0)
(参考)あいりん在住20年以上	28 (87.5)		1 (3.1)	1 (3.1)				2 (6.3)	32 (100.0)

人
表12-2ｂ　何で生計を立てているか（H11年）　(%)

	生保	年金・貯え・妻の収入	ケアセン小遣い	空缶回収	アブレ・休業補償	借金・友人援助	炊き出し等	不明	合計
アパート	22	3			1	1			27
病院・施設	21		1					1	23
簡宿		6		1	1	2		2	12
飯場									
野宿		2	2	11		1	4	3	23
シェルター									
その他		1	2	2			2	1	8
合計	43 (46.2)	12 (12.8)	5 (5.4)	14 (15.1)	2 (2.2)	4 (4.3)	6 (6.5)	7 (7.5)	93 (100.0)
(参考)あいりん在住20年以上	26 (53.1)	5 (10.2)	3 (6.1)	6 (12.2)		3 (6.1)	4 (8.2)	2 (4.1)	49 (100.0)

(ウ) 日雇・その他労働の１日の賃金、１ヶ月の就労日数、収入月収

（表 12―3）

１日平均賃金は平成 26 年の「現金」が 8,429 円、「飯場」が 8,167 円であった。平成 11 年の「現金」が 12,467 円、「飯場」が 11,133 円と比較して賃金は大幅に減少した。

１ヵ月の平均就労日数が平成 11 年は「現金」7.1 日、「飯場」11.2 日であったが、平成 26 年は「現金」5.6 日で減少し、「飯場」16.7 日で 5.5 日増加したが、「飯場」の１日平均賃金が減少しているので平均月収は同じくらいであった。

表12-3ａ　1日の賃金、1ヶ月の就労日数・収入月収（H26年）

	1日の平均賃金(円)	1月の平均就労日数(日)	平均月収(円)	備考
現金(8人)	8,429	5.6	38,434	
その他(2人)	2,040	24.0	47,720	
飯場(3人)	8,167	16.7	130,833	
特別清掃(4人)	5,700	14	40,000	空缶回収含
	5,700	6	34,200	
	5,700	6	34,200	
	5,700	25	64,200	空缶回収含

表12-3ｂ　1日の賃金、1ヶ月の就労日数・収入月収（H11年）

	1日の平均賃金(円)	1月の平均就労日数(日)	平均月収(円)	備考
現金(15人)	12,467	7.1	104,300	
その他(5人)	3,740		29,600	手配師の助手、一般土工、露店手伝い、ドヤ掃除
飯場(15人)	11,133	11.2	126,600	
特別清掃(4人)	5,700	1	7,200	空缶回収含む
	5,700	1	5,700	
	5,700	1	5,700	
	5,700	1	15,700	日々現金1日含む

(エ) 特別清掃※登録の状況　（表 12－4）

特別清掃に登録している人は平成 26 年が全体の 4.6%で平成 11 年が全体の 8.3%であったことから約半数に減少した。特別清掃の利用回数が平成 11 年は 3 名全員が「月 1～2 回」であったが、平成 26 年は 3 名全員が「月 3 回以上」に増加していた。

表12-4　特別清掃の状況

	有		利用回数			
			月1～2回		月3回以上	
	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年
アパート		1				
病院・施設		4				
簡宿	1					
飯場	1					
野宿	1	4		2	1	
シェルター	2				2	
その他		2		1		
合計	5/109	11/132	0	3	3	0

※　特別清掃（特掃）：平成 6 年から大阪府と大阪市が共同で、あいりん地域に拠点を置く 55 歳以上の日雇労働者で、生活保護を受給していない人を対象に、建設労働では体力が続かない人でも働ける屋外軽作業(道路清掃や公園等の除草等)を登録制で実施している。

②　飲酒状況

(ア) 居住別飲酒状況　（表 13－1）

アルコールを「飲む」人は平成 11 年が 47.0%であったが、平成 26 年は 55.0%に増加した。あいりん地域在住 20 年以上の人も同じような傾向で平成 11 年が 43.1%で平成 26 年が 62.5%で増加した。「飲む金がない」

人は、平成 11 年が 9.8%であったが平成 26 年は 0.9%と大幅に減少した。

表13-1　居住別飲酒状況　　人（%）

		やめた	飲まない	飲む金がない	飲む	合計
アパート	H26年	7	21		45	73
	H11年		15	1	12	28
病院・施設	H26年	2	6		3	11
	H11年		13	3	7	23
簡宿	H26年		2	1	3	6
	H11年		5	2	25	32
飯場	H26年				3	3
	H11年		3		5	8
野宿	H26年	1	1			2
	H11年		15	4	9	28
シェルター	H26年		2		3	5
	H11年					
その他	H26年	1	5		3	9
	H11年		6	3	4	13
合計	H26年	11 (10.1)	37 (33.9)	1 (0.9)	60 (55.0)	109 (100.0)
	H11年		57 (43.2)	13 (9.8)	62 (47.0)	132 (100.0)
あいりん在住20年以上	H26年	6 (18.8)	6 (18.8)		20 (62.5)	32 (100.0)
	H11年		29 (50.0)	4 (6.9)	25 (43.1)	58 (100.0)

(イ)飲酒量　（表 13－2）

日本酒換算 3 合以上飲酒している人は平成 11 年 32.2%であったが平成 26 年は 12.8%に減少した。あいりん地域在住 20 年以上の人も平成 11 年 36.0%から平成 26 年 9.4%と大幅に減少した。

表13-2 飲酒量　　人（%）

	日本酒換算3合未満		日本酒換算3合以上		合計	
	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年
アパート	60	6	13	6	73	12
病院・施設	11	4		3	11	7
簡宿	6	18		7	6	25
飯場	2	5	1		3	5
野宿	2	6		3	2	9
シェルター	5				5	
その他	9	3		1	9	4
合計	95 (87.2)	42 (67.7)	14 (12.8)	20 (32.2)	109 (100.0)	62 (100.0)
あいりん在住20年以上	29 (90.6)	16 (64.0)	3 (9.4)	9 (36.0)	32 (100.0)	25 (100.0)

③　入院歴　（表 14－1、表 14－2）

ここ 1 年の入院歴は平成 11 年が全体の 41.7%から平成 26 年は 46.8%でやや増加した。平成 11 年は「病院・施設」82.6%、「アパート」50.0%は入院歴 50.0%を超えていた。平成 26 年は「シェルター」60.0%、「施設・病院」54.5%、「アパート」53.4%が入院歴 50.0%を超えていた。

入院回数が 1 回の人は平成 11 年 28.0%で平成 26 年は 35.8%に増加した。しかし、4 回以上の入院歴のある人は平成 11 年が 3.8%であったが、平成 26 年は 1.8%に減少した。

入院に際しての救急車の利用は、平成 11 年 21.8%で平成 26 年 21.6%と大きな変化はなかった。

表14-1ａ　ここ1年の入院歴（H26年）

	有	入院回数			
		1回	2回	3回	4回以上
アパート	39 ／ 73　(53.4%)	31	4	3	1
病院・施設	6 ／ 11　(54.5%)	3	1	1	1
簡宿	1 ／ 6　(16.7%)	1			
飯場	0 ／ 3　(0.0%)				
野宿	0 ／ 2　(0.0%)				
シェルター	3 ／ 5　(60.0%)	3			
その他	2 ／ 9　(22.2%)	1	1		
合計	51 ／ 109　(46.8%)	39	6	4	2

表14-1ｂ　ここ1年の入院歴（H11年）

	有	入院回数			
		1回	2回	3回	4回以上
アパート	14 ／ 28　(50.0%)	8	4	2	
病院・施設	19 ／ 23　(82.6%)	10	4	2	3
簡宿	6 ／ 32　(18.8%)	4	1		1
飯場	1 ／ 8　(12.5%)	1			
野宿	11 ／ 28　(39.3%)	10			1
シェルター					
その他	4 ／ 13　(30.8%)	4			
合計	55 ／ 132　(41.7%)	37	9	4	5

表14-2 入院に際しての救急車利用状況

	入院回数							
	1回		2回		3回		4回以上	
	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年
アパート	5		1	1	1	1		
病院・施設		4	1			1	1	1
簡宿		1						1
飯場								
野宿		2						
シェルター	1							
その他	1							
合計	7	7	2	1	1	2	1	2

Ⅲ　疾病状況について

（ア）　疾病状況（表 15－1）

平成 26 年は消化器系疾患が最も多く 22.0%、次いで内分泌、栄養及び代謝疾患が 19.3%、筋骨格系及び結合組織の疾患が 15.6%と続いていた。平成 11 年と比較すると、最も多い疾患が消化器系で 34.8%であったのは、変り無かった。次いで循環器系が 18.9%、筋骨格系及び結合組織の疾患が 18.2%であった。平成 26 年は 2 番目に多い疾患が循環器系から内分泌、栄養及び代謝疾患に変った。

表15-1　年齢別疾病状況　　人（%）

	全対象者数		あいりん在住20年以上	
	H26年	H11年	H26年	H11年
消化器系疾患	24(22.0)	46(34.8)	7 (21.9)	18(31.0)
内分泌、栄養及び代謝疾患	21(19.3)	4(3.0)	1(3.1)	2(3.4)
筋骨格系及び結合組織の疾患	17(15.6)	24(18.2)	7(21.9)	10(17.2)
損傷、中毒及びその他の外因の影響	12(11.0)	8(6.1)	5(15.6)	5(8.6)
新生物疾患	11(10.1)	15(11.4)	4(12.5)	7(12.1)
呼吸器系疾患	9(8.3)	7 (5.3)	3(9.4)	
皮膚及び皮下組織の疾患	5(4.6)		1(3.1)	
循環器系疾患	4(3.7)	25(18.9)	2(6.3)	14(24.1)
血液疾患	2(1.8)		1(3.1)	
感染症	1(0.9)			
腎尿路生殖器系の疾患	1(0.9)			
神経系の疾患		3(2.3)		2(3.4)
その他	2(1.8)		1(3.1)	
合計	109(100)	132(100)	32(100)	58(100)

（イ）　居住様式別疾患（表 15－2）

「アパート」生活者は筋骨格及び結合組織の疾患 21.9%消化器系疾患 20.5%、内分泌、栄養及び代謝疾患 20.5%と同じくらいの割合であった。平成 11 年は消化器系疾患 32.1%で次いで循環器系 17.9%、筋骨格及び結合組織 17.9%で平成 26 年は循環器系が減少して内分泌、栄養及び代謝疾患が増加した。

平成 26 年の「簡宿」生活者は消化器系疾患 66.7%と 1 番多く、平成 11 年も消化器系疾患 43.8%で 1 番多かった。

平成 26 年の「野宿」生活者は 1.8%と少なかったが、平成 11 年は 21.2%と多く、消化器系疾患が 39.3%で 1 番多かった。

表15-2　居住様式別疾病　　人（%）

	アパート		病院・施設		簡宿		シェルター		飯場		野宿		その他		合計	
	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年
消化器系疾患	15	9	2	5	4	14			1	3		11	2	4	24 (22.0)	46 (34.8)
内分泌、栄養及び代謝疾患	15	2	2		1	1	1						2	1	21 (19.3)	4 (3.0)
筋骨格系及び結合組織の疾患	16	5	1	8		3				2		3		3	17 (15.6)	24 (18.2)
損傷、中毒及びその他の外因の影響	7	1	2	2			1		2			4		1	12 (11.0)	8 (6.1)
新生物疾患	8	4	1	2	1	6						3	1		11 (10.1)	15 (11.4)
呼吸器系疾患	5	2				1	3			1	1	2		1	9 (8.3)	7 (5.3)
皮膚及び皮下組織の疾患	2		1										2		5 (4.6)	
循環器系疾患	3	5		4		6				2		5	1	3	4 (3.7)	25 (18.9)
血液疾患	1		1												2 (1.8)	
感染症													1		1 (0.9)	
腎尿路生殖器系の疾患			1												1 (0.9)	
神経系				2		1										3 (2.3)
その他	1										1				2 (1.8)	
合計	73 (67.0)	28 (21.2)	11 (10.1)	23 (17.4)	6 (5.5)	32 (24.2)	5 (4.6)		3 (2.8)	8 (6.1)	2 (1.8)	28 (21.2)	9 (8.3)	13 (9.8)	109 (100.0)	132 (100.0)

（ウ）現在の仕事別疾患（表 15－3）

平成 26 年の調査では生活保護の人が 72.5%であった。この人たちは内分泌、栄養及び代謝疾患 22.8%、次いで消化器系疾患と筋骨格系及び結合組織の疾患が 17.7%であった。平成 11 年では生活保護の人は 32.6%と少なく、疾患では筋骨格系及び結合組織の疾患が 27.9%と 1 番で、次いで消化器系疾患が 25.6%であった。「日雇」は平成 26 年、平成 11 年とも消化器系疾患が 1 番多かった。

人

表15-3　現在の仕事別の疾病

(%)

	仕事なし																日雇		その他		合計	
	生保		年金・貯え・妻の収入		ケアセン小遣い		空缶回収		アブレ・休業補償		借金・友人援助		炊き出し等		不明							
	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年
消化器系疾患	14	11	2	2		2		5		1		2	1	2	2	2	5	17		2	24 (22.0)	46 (34.8)
内分泌、栄養及び代謝疾患	18	2						1									2	1	1		21 (19.3)	4 (3.0)
筋骨格系及び結合組織の疾患	14	12		2		2		2	1					1		1	1	4	1		17 (15.6)	24 (18.2)
損傷、中毒及びその他の外因の影響	9	2			1			3		1		1					2	1			12 (11.0)	8 (6.1)
新生物疾患	8	5	1	4				1				1			1			4			10 (9.2)	15 (11.4)
呼吸器系疾患	5	2					2	2						1		2	2	2			9 (8.3)	7 (5.3)
皮膚及び皮下組織の疾患	3				1												1				5 (4.6)	
循環器系疾患	3	7		3		1					1			2		2	1	7		1	5 (4.6)	25 (18.9)
血液疾患	2																				2 (1.8)	
感染症	1																				1 (0.9)	
腎尿路生殖器系の疾患	1																				1 (0.9)	
神経系の疾患		2		1																		3 (2.3)
その他	1																1				2 (1.8)	
合計	79 (72.5)	43 (32.6)	3 (2.8)	12 (9.1)	2 (1.8)	5 (3.8)	2 (1.8)	14 (10.6)	1 (0.9)	2 (1.5)	1 (0.9)	4 (3.0)	1 (0.9)	6 (4.5)	3 (2.8)	7 (5.3)	15 (13.8)	36 (27.3)	2 (1.8)	3 (2.3)	109 (100.0)	132 (100.0)

(エ) 飲酒別疾病（表 15－4）

「酒を飲まない」人は平成 26 年が内分泌、栄養及び代謝疾患が 21.6%で 1 番多かったが、平成 11 年は循環器系疾患が 24.6%で 1 番多かった。「飲む金がない」と答えた人は平成 26 年が 1 名（1%）であったが平成 11 年は 13 名（9.8%）で多かった。「飲む」と答えた人は平成 26 年が消化器系疾患の 21.7%、次いで内分泌、栄養及び代謝疾患が 20.0%であったのに対して、平成 11 年は消化器系疾患が 40.3%と多く、次いで筋骨格系及び結合疾患が 16.1%であった。

人
表15-4　飲酒別疾病　(%)

	飲まない		やめた		飲む金がない		飲む		「飲む」の内訳				合計	
									日本酒換算3合以上/日*		日本酒換算3合未満/日*			
	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年	H26年	H11年
消化器系疾患	7	18	3		1	3	13	25	4	8	9	17	24 (22.0)	46 (34.8)
内分泌、栄養及び代謝疾患	8	1	1			1	12	2	1	1	11	1	21 (19.3)	4 (3.0)
筋骨格系及び結合組織の疾患	2	10	4			4	11	10	6	2	5	8	17 (15.6)	24 (18.2)
損傷、中毒及びその他の外因の影響	2	2	1			1	9	5	4	2	5	3	12 (11.0)	8 (6.1)
新生物疾患	5	7	1			2	5	6	1	3	4	3	11 (10.1)	15 (11.4)
呼吸器系疾患	4	3				1	5	3	1	2	4	1	9 (8.3)	7 (5.3)
皮膚及び皮下組織の疾患	4						1				1		5 (4.6)	
循環器系疾患	2	14				1	2	3		2	2	8	4 (3.7)	25 (18.9)
血液疾患	1						1				1		2 (1.8)	
感染症							1				1		1 (0.9)	
腎尿路生殖器系の疾患	1												1 (0.9)	
神経系の疾患		2						1				1		3 (0.0)
その他	1		1										2 (1.8)	
合計	37 (33.9)	57 (43.2)	11 (10.1)		1 (0.9)	13 (9.8)	60 (55.0)	62 (47.0)	17 (28.3)	20 (32.3)	43 (71.7)	42 (67.7)	109 (100.0)	132 (100.0)

＊ 日本酒換算3合・・・焼酎では300ml、ビールでは1500ml相当

5. 考察

平成 11 年当時はバブル経済崩壊後のグローバル経済により、企業は人件費削減のため非正規労働者を増やし、現役世代の収入格差が問題にされるようになっていた。

あいりん地域は求人が大幅に減少し、仕事にアブレた日雇労働者が野宿を余儀なくされ、炊き出しで飢えをしのいで生活していた。そのため、寝泊まりできる生活ケアセンターに入るためや病気で当院を受診するために市立更生相談所に相談に行く人が増加し、当院の受診患者も増加した。

その後、日本経済がやや安定して完全失業率が減少してきた平成 20 年のリーマンショックにより世界的に経済が冷え込み、日本経済の大幅な景気後退に繋がった。リーマンショックによる不況のために、非正規労働者が最初に解雇され大阪以外から仕事を求めてあいりん地域に来る人が増加した。しかし、あいりん地域でも仕事が無く、これまでは 65 歳以上の高齢者が生活保護を受給されていたが、若年層も生活保護を受給して生活する人が増加した。

このような社会状況の変化から居住状況を平成 11 年と比較すると、アパートが 21.2%から 67.3%に増加し、簡易宿泊所が 24.2%から 5.5%に減少した。野宿は

21.2%から 1.8%に減少した。以上の事から平成 11 年に比べて生活の安定している人が増加したと推測される。

また、あいりん地域在住 5 年以下が平成 11 年と比較して 16.6%から 33.0%に増加したのは、最近他府県で失業した人があいりん地域に来たためと考えられる。

疾病状況を平成 11 年と比較すると、循環器系の疾患が減少したのは生活保護の人が増加して、高血圧などは外来通院で治療できるようになってきていると思われる。内分泌、栄養及び代謝疾患は主に糖尿病の教育入院である。

入院前日の居住場所が平成 26 年は飯場や野宿の人が 0%であったことや、食事の状況の「炊き出し」が減少したことからも生活が安定していると考えられる。しかし、入院前日の居住が「アパート」の人 71.1%が「食事なし」であることから、体調不良で食事が食べられない人が多いと推測される。

入浴状況は平成 11 年と比較して、「アパート」で生活する人が増加したことから、「自宅」で入浴する人が増加したと考える。

「生活保護」の人は平成 11 年が 46.2%であったが平成 26 年は 84.0%に増加した。これは、第一に高齢化のため会社に雇ってもらえなくなった。第二に日雇の 1 日平均賃金は「現金」「飯場」共に平成 11 年より減少したため、平均就労日数が増えても収入が少ないためと思われる。また、リーマンショック後の日比谷公園の「年越し派遣村」は社会問題化し、生活保護の受給要件に失業も認められるようになり、若年層でも仕事が無い場合は生活保護が受給されることが多くなったためと推察される。そして、生活保護受給者が増加したため、特別清掃に登録する人が減少し利用回数が平成 11 年より増加したと考えられる。

飲酒状況のアルコールを「飲む」人が平成 26 年は平成 11 年に比較して増加した。「飲む金がない」人が平成 26 年は大幅に減少していることから、平成 11 年は飲みたくても飲めない人が多かったが、平成 26 年は生活が安定して飲酒するお金はあるが晩酌程度に飲む人が増加したため、日本酒換算 3 合以上飲酒している人が少なくなったと思われる。

昨年の臨泊利用状況は平成 11 年と比較して平成 26 年は減少していることから、生活保護受給者が増加し、住所不定者が減少したためと推察される。

施設の利用状況は「生活ケアセンター」利用者が平成 11 年 63.5%から平成 26 年 33.3%に減少したことも、住所不定者が減少したためと考えられる。

入院歴は救急車利用を含めて平成 11 年と平成 26 年に大きな変化はなかった。

6. まとめ

平成 11 年に比して平成 26 年調査では全般的に生活環境の改善が見られるように思われた。

居住様式：生活保護受給者の増加でアパート居住者が増え、また「シェルター」が出来たことにより純粋な野宿者は激減した。

仕事：平成 11 年では 4 分の 1 近くに認めた「白手帳」所持者は今回の調査では 109 人中 4 人のみで仕事をしていない人の割合がさらに増加した。

食事：「炊き出し」利用者は今回調査では大きく減少し、食事面の改善も図られてきたためと考える。

飲酒：飲酒者は増加したものの常用飲酒家（日本酒換算 3 合/日以上の飲酒家）は減少し、適量飲酒する人が増えてきている。

疾患：生活保護の受給などで飢えることは減少してきているが、この地域ではほとんどが男性単身生活者でバランスよい食事を摂ること出来ず生活習慣病が多く見られるようになった。特に内分泌、栄養及び代謝疾患（ほとんどが糖尿病の教育入院）の割合が増加した。

今回の調査では 15 年前に比して生活保護受給者が増加し、仕事の無い人が漸増してきている。また糖尿病などの生活習慣病で入院する人が増えていることより、生活の質の向上に繋がる取組みの必要性が考えられた。

（別紙）

入　院　患　者　調　査　票

入院時の病名	医療保障

前日の住所
① あいりん地域　② あいりん地域以外の西成区　③ 不定　④ その他（　　）

前日の居住状況
① 簡宿　② アパート　③ 飯場　④ 野宿　⑤ ﾃﾝﾄ生活　⑥ シェルター　⑦ 病院・施設　⑧ その他（　　）
④⑤と答えた方　（場所　　何日位　　）

ここ1ヶ月の主な住所
① あいりん地域　② あいりん地域以外の西成区　③ 不定　④ その他（　　）

ここ1ヶ月の居住状況
① 簡宿　② アパート　③ 飯場　④ 野宿　⑤ ﾃﾝﾄ生活　⑥ シェルター　⑦ 病院：施設　⑧ その他（　　）
④⑤と答えた方　　場所　　何日位

あいりん地域に来てから　　年位	あいりん地域に来る前は　　（都道府県）

昨日の食事内容　（朝）　（昼）　（夕）
炊き出しの利用　無　有（ 毎日　時々＜週に　回＞）

シェルターの利用　無　有（ 毎日　時々＜週に　回＞）
ここ1ヶ月の入浴（シャワー）の状況
無　有（ 毎日　週に　回　月に　回　場所　　）

白手帳　無　有	特別清掃登録　無　有

現在の仕事（何で生計をたてているか）
① 無　（ ダンボール回収　空き缶回収　　）
② 日雇（ 現金　飯場　特別清掃　その他　　）
③ 正社員
④ その他（　　）　賃金1日（　　円）
ここ1ヶ月の就労日数　　日
ここ1ヶ月の収入月収　　円

アルコール
① 飲まない　② 飲む金が無い（飲んでいない期間　　）
③ 飲む（ 酒　焼酎　ビール　その他　　1日　　合　（本）

昨年の臨泊（越年対策）利用　無　有
ここ6ヶ月の施設の利用（複数回答可）
① 生活保護施設　② 生活ケアセンター　③ シェルター　④無　⑤その他（　　）

ここ1年の入院歴
無　有（　　回　うち救急車利用＜　　回＞）

退院後の居住状況
① 施設（　　）　②アパート　③ 簡宿　④ その他（　　）
退院後の通院　無　有

退院後の生活に対する不安等